

スマート農業技術の開発・実証・実装プロジェクト

【令和3年度補正予算額 4,850百万円】

<対策のポイント>

これまでのスマート農業実証プロジェクトで得られた成果と課題を踏まえ、生産現場のスマート農業の加速化等に必要な技術の開発から、個々の経営の枠を超えて効率的に利用するための実証、実装に向けた情報発信までを総合的に取り組みます。

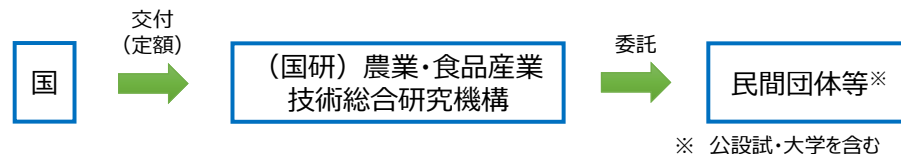
<政策目標>

担い手のほぼ全てがデータを活用した農業を実践 [令和7年まで]

<事業の内容>

- 1. 戦略的スマート農業技術等の開発・改良** 2,450百万円
 複数の品目で汎用的に利用できる栽培管理・収穫・収納などに対応した作業ロボットや、自動化・機械化の効率を高める新たな栽培方法、様々なデータを活用したシステム等、**生産現場のスマート化を加速するために必要な農業技術を開発・改良**します。
 あわせて、スマート農業と連携しつつ、輸出拡大に貢献する栽培技術等の開発を実施します。
- 2. スマート農業産地形成実証** 2,400百万円
 ① 広域的で複数の経営体からなる産地をあたかも一つの経営体のように捉え、生産から営農・労務管理、販売までの各段階の課題に対して**産地ぐるみでスマート農業技術を導入するための実証を実施**します。
 ② 実際にスマート農業を体験できる場の設定、経営に導入しようとする際のシミュレーションの提示等、**スマート農業実証プロジェクトの実施地区と連携した情報発信を実施**します。

<事業の流れ>



<事業イメージ>

開発

○戦略的スマート農業技術等の開発・改良

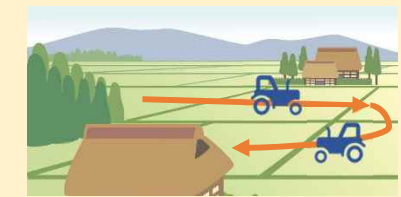
果菜類の栽培管理や収穫・収納・洗浄等に汎用的に使える作業ロボットや、野菜・果樹の自動収穫機等の開発や改良等



玉ねぎの自動収穫機 (試作機)

実証

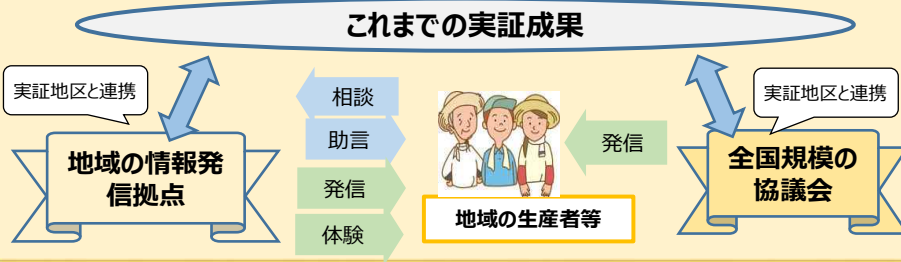
○スマート農業産地形成実証



スマート農業の導入と合わせ、その最適化のために産地全体の栽培体系を転換

栽培作物や作期を揃えて団地化し、オペレーターが産地内の作業を一括して実施

実装



「スマート農業」の社会実装の一層の加速化

[お問い合わせ先]
 農林水産技術会議事務局研究推進課 (03-3502-7437)